



謹んで新春の招慶びを申し上げます

新冠町長 鳴海修司



新年あけましておめでとございます。皆さまにおかれましては、新春を穏やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、旧年中は町政の推進について、ご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

コロナ禍社会を脱した今、人の流れは新型コロナウイルス感染症まん延前を超えるまでになり、経済活動も活発になっていくことを感じる反面、物価高、資材高騰は治まる様子がなく、日々の生活にどこか不安を感じる方が多いものとも感じています。

また、能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます、そして一日も早いご復興をお祈りいたします。

さて、昨年は日高山脈襟裳国定公園が国立公園に指定され、北海道内に37年ぶりに新たな国立公園「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生しました。国立公園の誕生は、管内7町共通の喜びであり、日高の魅力発信の新たな機会が生まれたものと考えています。今後は、厳格な自然保護のもと、日高山脈襟裳十勝国立公園が日高全体の地域活性化に貢献することを願ってやみません。

昨年の本町の産産を顧みますと、まず、軽種馬生産では、町内生産馬での好走が続き、(株)ノースヒルズで生産されました「ラムジェット号」が東京ダービー(JpnI)を制覇し、(有)新冠タガノファームで生産されました「タガノビューティー号」がJBCスプリント(JpnI)を制覇するという嬉しいニュースがありました。また、日高軽種馬農協が主催する北海道市場におきましても全体の売却総額が過去最高額を記録し、町内生産牧場の売却率も過去最高を記録しましたことから、引き続き、活発な取引が展開されることを切に願っています。

さらに、基幹作物のピーマンも好調を継続し、2年連続で販売金額の最高額を更新し、本年も期待される場所です。

本年のまちづくりを取り巻く環境に目を向けますと、令和7年度内に日高自動車道当町インターチェンジが開設されます。インターチェンジの開設によって町外、管外への交通利便性が向上し、更には当町への流入人口の増加について期待が膨らむところと見られます。

現在、北海道は新たな企業の進出によって全国から注目されています。そのような中、当町の交通事情が飛躍的に向上することで、町の発展可能性を多くの町民の方が感じられているのではないのでしょうか。

また、昨年は市街地に広大な町有地を有するに至りました。その活用は、今後多くの協議を経て、決まってくるものとなりますが、町が直面する人口減少対策、公共施設の建て替え用地など、さまざまな施策の事業実施が可能な土地ですので、町の未来を明るく照らす議論が本年からスタートすることは嬉しいかぎりです。

本年は、私の町政二期目の最終年です。これまで私は、子ども達、そして若者が夢を抱くことができるまちづくりの実現に誠心誠意取り組んできました。夢を抱くことができるまちづくりとは、安心して暮らせ、未来への飛躍と希望を持てるまちづくりと考えています。今、新冠町は、さまざまな変革可能性を有しています。可能性の実現化に向けては、財政的な裏付けをしっかりと持ち、将来世代に負担を継承させることのないよう十分な検証を行った上で最善の方策を尽くしたなら、新冠町のまちづくりに多くの町民が夢と希望を抱くことができるものと考えています。

これまで町政の推進に当たっては、多くの町民に支えられてきたことに感謝申し上げます、そして新冠町のまちづくりの発展を祈念し、令和7年の年初の挨拶とさせていただきます。